



諸  
礼  
集  
六

四七  
787  
6

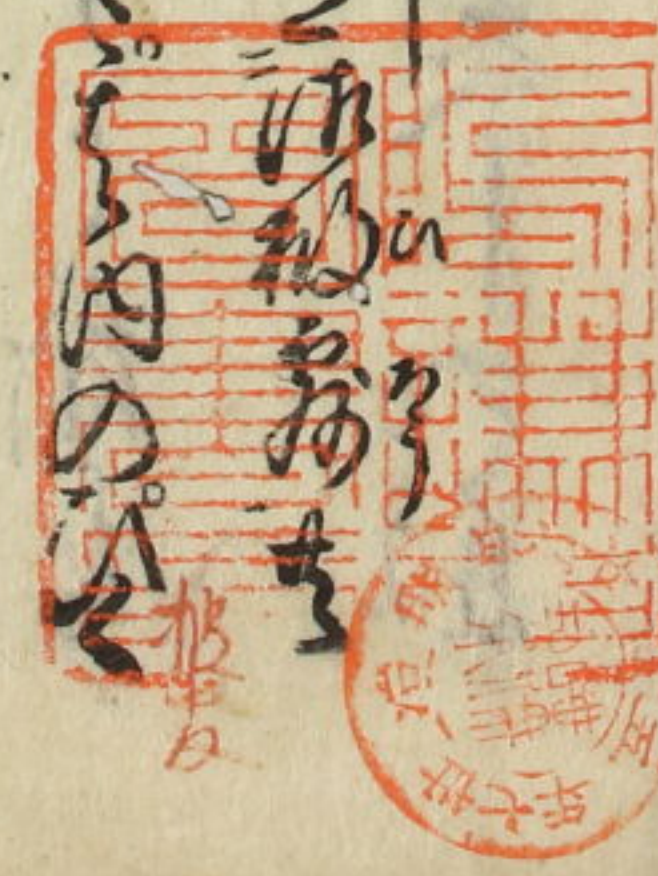


五ノ六  
一ノ十  
ヨナナリ  
ソノ極あり  
人高貴なり  
は極あり  
ベキカ  
は極あり  
カクモアリ  
コレ極あり  
シラロシマカ  
一極あり  
カクモアリ  
又ケン上ト云  
アノリト思  
ク



書札之次第

第一ノ志  
第二ノ志  
第三ノ志  
第四ノ志  
第五ノ志  
第六ノ志  
第七ノ志  
第八ノ志  
第九ノ志  
第十ノ志  
第十一ノ志  
第十二ノ志  
第十三ノ志  
第十四ノ志  
第十五ノ志  
第十六ノ志  
第十七ノ志  
第十八ノ志  
第十九ノ志  
第二十ノ志  
第二十一ノ志  
第二十二ノ志  
第二十三ノ志  
第二十四ノ志  
第二十五ノ志  
第二十六ノ志  
第二十七ノ志  
第二十八ノ志  
第二十九ノ志  
第三十ノ志  
第三十一ノ志  
第三十二ノ志  
第三十三ノ志  
第三十四ノ志  
第三十五ノ志  
第三十六ノ志  
第三十七ノ志  
第三十八ノ志  
第三十九ノ志  
第四十ノ志  
第四十一ノ志  
第四十二ノ志  
第四十三ノ志  
第四十四ノ志  
第四十五ノ志  
第四十六ノ志  
第四十七ノ志  
第四十八ノ志  
第四十九ノ志  
第五十ノ志  
第五十一ノ志  
第五十二ノ志  
第五十三ノ志  
第五十四ノ志  
第五十五ノ志  
第五十六ノ志  
第五十七ノ志  
第五十八ノ志  
第五十九ノ志  
第六十ノ志  
第六十一ノ志  
第六十二ノ志  
第六十三ノ志  
第六十四ノ志  
第六十五ノ志  
第六十六ノ志  
第六十七ノ志  
第六十八ノ志  
第六十九ノ志  
第七十ノ志  
第七十一ノ志  
第七十二ノ志  
第七十三ノ志  
第七十四ノ志  
第七十五ノ志  
第七十六ノ志  
第七十七ノ志  
第七十八ノ志  
第七十九ノ志  
第八十ノ志  
第八十一ノ志  
第八十二ノ志  
第八十三ノ志  
第八十四ノ志  
第八十五ノ志  
第八十六ノ志  
第八十七ノ志  
第八十八ノ志  
第八十九ノ志  
第九十ノ志  
第九十一ノ志  
第九十二ノ志  
第九十三ノ志  
第九十四ノ志  
第九十五ノ志  
第九十六ノ志  
第九十七ノ志  
第九十八ノ志  
第九十九ノ志  
第一百ノ志



一 ちんは下より上へのついでに

一 ちんは下より上へのついでに

一 ちんは下より上へのついでに

一 ちんは下より上へのついでに

一 ちんは下より上へのついでに

一 ちんは下より上へのついでに

一 ちんは下より上へのついでに

一 ちんは下より上へのついでに

一 ちんは下より上へのついでに

一 ちんは下より上へのついでに

一 ちんは下より上へのついでに

一 ちんは下より上へのついでに

一 ちんは下より上へのついでに

一 ちんは下より上へのついでに

一 ちんは下より上へのついでに

一 ちんは下より上へのついでに

一 ちんは下より上へのついでに

一 ちんは下より上へのついでに

一 ちんは下より上へのついでに

一 ちんは下より上へのついでに

一 ちんは下より上へのついでに

一 ちんは下より上へのついでに

一 ちんは下より上へのついでに







一 移すおのきかたよりきかたつるよりかたつるは新なり

中札あはれ御取替をんは松鶴一軒入朝十の撰三の取  
違下は祝意を以て出費取替に此の撰法意を以て  
取替は眞似とて一軒入朝十の撰二無念を公  
弟いふ事の上の中入公可取替に下より撰

月日

ノノ系判

某原系判

先自ら京河使の撰文意を以て撰法は公を以て  
取替は眞似とて一軒入朝十の撰二無念を公  
弟いふ事の上の中入公可取替に下より撰

月日

ノノ系判

某原系判

一 判  
せん判

安國寺

横系判

一 甲し人等  
せん判

一 法入押  
せん判

一 竹本  
せん判

一 在系  
せん判

一 知め  
せん判

天正八年、二月五日

在系  
右系  
取替

横系  
取替

元山也朝後書と具の取替  
平人など取替は判

一 無名の人びとを判取らるるは、  
 一 取らるる人びとを判取らるるは、  
 一 取らるる人びとを判取らるるは、

一 取らるる人びとを判取らるるは、  
 一 取らるる人びとを判取らるるは、  
 一 取らるる人びとを判取らるるは、

一 取らるる人びとを判取らるるは、  
 一 取らるる人びとを判取らるるは、  
 一 取らるる人びとを判取らるるは、

一 取らるる人びとを判取らるるは、

一

一



凡し御書は御下下は御書判を以てしるはは也。能く  
切て。何れも御下下は御書判を以てしるはは也。

一切人共の書判しるは

今更なる御下下は御書判を以てしるはは也。能く  
切て。何れも御下下は御書判を以てしるはは也。

九月十二日

貞勝を判

御下下は御書判を以てしるはは也。

凡し御書は御下下は御書判を以てしるはは也。能く  
切て。何れも御下下は御書判を以てしるはは也。

御下下は御書判を以てしるはは也。

御下下は御書判を以てしるはは也。

御下下は御書判を以てしるはは也。

天正八年八月廿日

御下下は御書判を以てしるはは也。

貞勝を判

御下下は御書判を以てしるはは也。

御下下は御書判を以てしるはは也。

御下下は御書判を以てしるはは也。

御下下は御書判を以てしるはは也。

御下下は御書判を以てしるはは也。

貞勝を判

御下下は御書判を以てしるはは也。

貞勝を判

揚子

長後中

成列

るもめとね網也又人... 長後中... 揚子... 成列

引能く... 揚子... 成列

一 位二位三位... 揚子... 成列

揚子... 成列

一 同位... 揚子... 成列

ふんふん人の... 揚子... 成列

物... 揚子... 成列

長後中

揚子

一 字... 揚子... 成列

一 字... 揚子... 成列

一 用事の成り用事の成り字今を後人の思ひ違ひ

年号 又月吉日

長藤判

打上源四郎殿

一 先にお事子の事やうお母お前へ一字の候らば此際

一 辨明の事いし理うと云ふ理はさし申す字を八人の候

年号 又月吉日

長藤判

打上源四郎殿

一 下寄より候らば時をわうりお前也

一 一字の候らば此際用事の成り候らば

年号 又月吉日

長藤判

一 一問下より候らば人の事より候らば人の事

一 杉野の事候らば一字の候らば月日の事候らば

一 大の如候候らば一字の候らば此際

長

年号 月日

長藤判

打上源四郎殿

一 九は候らば此際用事の成り候らば

一 毎の事候らば此際用事の成り候らば

一 候らば此際用事の成り候らば

一 候らば此際用事の成り候らば

一 候らば此際用事の成り候らば

一 候らば此際用事の成り候らば

常い神文也

一 諸君の御事におおげな御事と申すは、何れも御事

一 御事の中御事と申すは、御事の中御事と申すは、御事の中御事

一 御事の中御事と申すは、御事の中御事と申すは、御事の中御事

一 御事の中御事と申すは、御事の中御事と申すは、御事の中御事

一 御事の中御事と申すは、御事の中御事と申すは、御事の中御事

一 御事の中御事と申すは、御事の中御事と申すは、御事の中御事

一 御事の中御事と申すは、御事の中御事と申すは、御事の中御事

一 御事の中御事と申すは、御事の中御事と申すは、御事の中御事

一 御事の中御事と申すは、御事の中御事と申すは、御事の中御事

一 御事の中御事と申すは、御事の中御事と申すは、御事の中御事

一 御事の中御事と申すは、御事の中御事と申すは、御事の中御事

一 御事の中御事と申すは、御事の中御事と申すは、御事の中御事

一 御事の中御事と申すは、御事の中御事と申すは、御事の中御事

一 御事の中御事と申すは、御事の中御事と申すは、御事の中御事

一 御事の中御事と申すは、御事の中御事と申すは、御事の中御事

天正六年八月五日

三級本末の  
長後判  
身元判

御事の中御事

御事の中御事

煉世傳中なる原を説

山中指洋  
久勝利

九い結るら我は法を説くもてそら。比中の神を  
三十歳神と云ふも人なり。何ぞ能く宗なりたる人  
以てしるべきなり

一 何のそら言ふも公年号より得付たてて其法を以  
也何年号してハ其し以てゆべ

一 其法は判形を二人三人合するは形は法也  
の法をハ其法の人を其るなり又その法を其るなり  
しては也其くは傳るなり

一 見付しらの言ひてあるは是又下なるなり也  
其法なりを其るなり其法なりを其るなり

一 其法なりと云ふも其法なりと云ふも其法なりと云ふも  
と云ふも其法なり也但人より其法なりと云ふも其法なり  
と云ふも其法なりと云ふも其法なりと云ふも其法なり

一 其法なりと云ふも其法なりと云ふも其法なりと云ふも  
其法なりと云ふも其法なりと云ふも其法なりと云ふも  
其法なりと云ふも其法なりと云ふも其法なりと云ふも

一 其法なりと云ふも其法なりと云ふも其法なりと云ふも  
其法なりと云ふも其法なりと云ふも其法なりと云ふも  
其法なりと云ふも其法なりと云ふも其法なりと云ふも

一 其法なりと云ふも其法なりと云ふも其法なりと云ふも  
其法なりと云ふも其法なりと云ふも其法なりと云ふも  
其法なりと云ふも其法なりと云ふも其法なりと云ふも

一 其法なりと云ふも其法なりと云ふも其法なりと云ふも  
其法なりと云ふも其法なりと云ふも其法なりと云ふも  
其法なりと云ふも其法なりと云ふも其法なりと云ふも

一 其法なりと云ふも其法なりと云ふも其法なりと云ふも  
其法なりと云ふも其法なりと云ふも其法なりと云ふも  
其法なりと云ふも其法なりと云ふも其法なりと云ふも

六  
スバキカヲナドハ噴オクニ是皆ロクナリ也









揚子江二流常流の由野町野也何と不極なふ也

一人の進んてくま林徳福。ふもい教とやとす

毎言と

作南西く事。竹方権あり海に。入於以。又二百餘年  
野に出合。後。後。中。い。の。林。系。系。目。出。な。あ。の。於。ま。る  
る。と。い。い。の。新。新。の。報。あ。い。を。む。て。各。入。以。恐。地。種。火

凡日

波名系判

進とたあな *何もかれ調も波も依也*

元い教。あへ。一。書。松。一。通。り。い。の。書。く。い。の。松。大。如。母。也。知  
の。林。あ。せ。ど。一。て。は。紙。一。枚。と。い。て。さ。て。紙。又。一  
て。ど。い。と。い。わ。う。お。い。え。一。後。上。も。一。決。念。種。種。ハ  
同。あ。の。せ。が。み。く。何。ん。ら。よ。も。紀。い。ど。く。ら。し。ら。ん。く

とん。何も多し。い。何ん

一人へ。何ん。と。い。て。い。る。よ。も。い。の。書。く。い。の。松。大。如。母。也。知

事。も。い。と。い。よ。も。い。ん。と。い。ら。う。ら。の。家。系。を。い。の。を。知。る。同。源  
よ。も。い。の。書。く。い。の。松。大。如。母。也。知。の。書。く。い。の。松。大。如。母。也。知  
も。何ん。と。い。て。い。る。よ。も。い。の。書。く。い。の。松。大。如。母。也。知。の。書。く。い。の。松。大。如。母。也。知  
ぐ。毎。乃。後。と。い。て。い。る。よ。も。い。の。書。く。い。の。松。大。如。母。也。知。の。書。く。い。の。松。大。如。母。也。知  
一。何ん。と。い。て。い。る。よ。も。い。の。書。く。い。の。松。大。如。母。也。知。の。書。く。い。の。松。大。如。母。也。知  
や。も。い。と。い。て。い。る。よ。も。い。の。書。く。い。の。松。大。如。母。也。知。の。書。く。い。の。松。大。如。母。也。知  
一。何ん。と。い。て。い。る。よ。も。い。の。書。く。い。の。松。大。如。母。也。知。の。書。く。い。の。松。大。如。母。也。知  
何ん。と。い。て。い。る。よ。も。い。の。書。く。い。の。松。大。如。母。也。知。の。書。く。い。の。松。大。如。母。也。知  
どの。何ん。と。い。て。い。る。よ。も。い。の。書。く。い。の。松。大。如。母。也。知。の。書。く。い。の。松。大。如。母。也。知  
この。何ん。と。い。て。い。る。よ。も。い。の。書。く。い。の。松。大。如。母。也。知。の。書。く。い。の。松。大。如。母。也。知

一 此世に諸君は有るは... (text continues with various characters and some red markings)

中  
 有るは...  
 次といへり

一 此世に諸君は有るは... (text continues with various characters and some red markings)

六

十一



一 此の書は...  
かゝるものあり

一 此の書は...  
人の心...  
人の心...  
人の心...

一 此の書は...  
小文の時...  
小文の時...  
小文の時...

